

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS4608		
科目名	卒業研究		
担当教員	小松 泰喜		
対象学年	4年	開講学期	通年
曜日・時限	水 5		
講義室	1007	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	4
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード:学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP3-G 状況把握力・判断力自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP3-H 論理的思考力・批判的思考力理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP3-F 探究力・課題解決力問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 理解力・分析力文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J 創造的挑戦力・達成力コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 ■ C Rコード:学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 G 1 状況把握（30%） H 2 論理的思考（15%） F 1 探究と論拠（20%） I 3 情報分析（15%） J 2 創造的思考（10%）		
教員の実務経験	平成7（1995）年度 日本体育協会 スポーツ医科学研究報告競技種目別競技力向上事業研究におけるスポーツ医科学の実践的報告から、虚弱高齢者の身体組成、身体機能に及ぼす運動負荷と栄養補助に関する探索的検討（UMIN試験ID：UMIN000034411）による基礎的研究まで幅広く研究分野を持ち、スポーツ科学の基盤となる研究領域を凌駕した実践的研究の経験が多くあることから、これまでの基礎的な知見と臨床的経験を活かした講義を行います（第2回，第3回，第4回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	ゼミナールⅠに続き、グループでの作業を進め、最終的には研究発表会を開催します。研究発表会に向けて、研究のプレゼンテーション方法について実践を通して学んでいきます。また、卒業研究や卒業論文として各自が取り上げたい課題を選択していく準備を行い、論文の書き方についても理解を深めていきます。授授業形態は講義形式により行い、実習形式による演習授業を行います。なお、コンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を一部取り入れます。		

	■[キーワード] 研究法・研究計画書・プレゼンテーション			
授業の趣旨	■副題 スポーツ科学に関する研究の実践および発表と振り返りにより研究を推進することができる ■授業の目的 学習した内容を基に自身もしくはグループでゼミナールⅠで立案した研究計画の再検討を行いそれを実践し、研究結果に関する他者との議論内容を踏まえ、発表することができることを目的とします。 ■授業のポイント 研究計画の実行に伴い、実際の競技復帰やその予防方法に関する研究方法の汎用性や限界について実践を通して学びます。			
総合到達目標	■アスレックリハビリテーション演習およびゼミナール等で扱った授業内容や話題から、その研究の実施を想定し、研究計画を立案・作成し、それに基づき研究を実行し、さらに結果の考察により研究発表ができる。 ■授業では他者との議論を積極的にを行い、自身の研究内容を吟味し、研究発表の内容に反映することができる。 ・スポーツ科学に関する研究の実践および発表と振り返りにより研究を推進することができる（第2回～第9回） ・学習した内容を基に自身もしくはグループでゼミナールⅠで立案した研究計画の再検討を行いそれを実践し、研究結果に関する他者との議論内容を踏まえ、発表することができる（第10～12回） ・研究計画の実行に伴い、実際の競技復帰やその予防方法に関する研究方法の汎用性や限界について実践を通して学ぶことができる（第13回～15回） ・実際の競技復帰やその予防方法の研究についてその研究計画を立案、作成し、それに基づき計画を実行し、さらに結果の考察までの過程を説明することができる（第16回～26回） ・他者との議論を重ね、自身およびグループでの具体的な発表方法を検討することができる（第27回～30回）			
成績評価方法	■研究計画書（30%）適用ルーブリック G1 J2 （評価の観点）他者の発表や研究手法の情報に関する内容などから、当該授業内容について研究計画書の作成を行い記載内容の評価を行います。 （フィードバックの方法）研究計画書提出後に授業内容の振り返りを行います。 ■プレゼンテーション（70%）適用ルーブリック F1 I2 I3 J2 （評価の観点）自身もしくはグループでの研究実践結果を発表し、その内容について評価を行います。 （フィードバックの方法）各発表後に講評（作成資料へのコメントも含め）を行います。			
履修条件	ゼミナールⅠ（SSCS4405）・Ⅱ（SSCS4406）を履修していること。			
履修上の注意点	ゼミナールⅡ（SSCS4406）で配布している「よくわかる卒論の書き方」資料を見直すこと。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業オリエンテーションとして、卒業研究課題について説明をし、実験研究を行う上でやむを得ず開講日にこだわらず研究を遂行する必要があること、可能な限りゼミナールⅠ、ゼミナールⅡの履修者の協力を得るようにし、研究計画書通り、滞りなく研究が進むようにする。さらにこれまでの実務経験から具体的な研究計画書を示し、実施中の研究についても説明を加える。G1 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理を行う。 ④復習（300分） ガイダンスによって説明された内容を踏まえ、研究計画書を適宜作成、研究実施に向けた承認を得るようにする。	16	①授業テーマ 研究の実施に向けて ②授業概要 共同研究者は3名は役割及び分担を指導教員に明示する。I3 ③予習（300分） スケジュールに則り、研究を実施する。 ④復習（300分） 研究実施に向けた準備を行う。
	2	①授業テーマ 研究計画書作成① ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえ	17	①授業テーマ 研究実施① ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対

	て、研究計画書の作成作業と研究課題に対する文献整理と抄読会を実施する。G 1 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。		する研究を実施する。 I 3 ③予習（120分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（120分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
3	①授業テーマ 研究計画書作成② ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、研究計画書の作成作業と研究課題に対する文献整理と抄読会を実施する。G 1 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	18	①授業テーマ 研究実施② ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
4	①授業テーマ 研究計画書作成③ ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、研究計画書の作成作業と研究課題に対する文献整理と抄読会を実施する。G 1 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	19	①授業テーマ 研究実施③ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
5	①授業テーマ 研究計画書作成④ ②授業概要 研究課題に対する文献整理を踏まえ、抄読会を得た知見から研究計画書の作成作業を実施する。H 2 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	20	①授業テーマ 研究実施④ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
6	①授業テーマ 研究計画書作成⑤ ②授業概要 研究課題に対する文献整理を踏まえ、抄読会を得た知見から研究計画書の作成作業を実施する。H 2 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	21	①授業テーマ 研究実施⑤ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
7	①授業テーマ 研究計画書作成⑥ ②授業概要 研究課題に対する文献整理を	22	①授業テーマ 研究実施⑥ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対

	踏まえ、抄読会を得た知見から研究計画書の作成作業を実施する。H 2 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
8	①授業テーマ 研究計画書作成⑦ ②授業概要 研究課題に対する文献整理を踏まえ、抄読会を得た知見から研究計画書の作成作業を実施する。H 2 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	23 ①授業テーマ 研究実施⑦ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
9	①授業テーマ 研究計画書作成⑧ ②授業概要 研究課題に対する文献整理を踏まえ、抄読会を得た知見から研究計画書の作成作業を実施する。H 2 ③予習（300分） 研究計画書の作成準備のための資料整理と発表準備を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、再考を重ねる。それぞれ研究計画書の進捗状況に応じてその完成度を見直し、適宜作成作業を進め、研究実施に向けた承認を得るようにする。	24 ①授業テーマ 研究実施⑧ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
10	①授業テーマ 研究計画書事前発表会① ②授業概要 研究計画書に則り、研究実施に向けた承認を得るための発表・確認・評価を行う。F 1 ③予習（300分） 研究計画書の承認に向けた作成を中間発表に向け、最終調整を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、さらに再考を重ねる。それぞれ研究計画書の到達度によって予備実験へ進む。また、適宜修正・加筆を加えた研究計画書はさらなる作業を進め、最終的な承認の準備を行う。	25 ①授業テーマ 研究実施⑨ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
11	①授業テーマ 研究計画書事前発表会② ②授業概要 研究計画書に則り、研究実施に向けた承認を得るための発表・確認・評価を行う。F 1 ③予習（300分） 研究計画書の承認に向けた作成を中間発表に向け、最終調整を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、さらに再考を重ねる。それぞれ研究計画書の到達度によって予備実験へ進む。また、適宜修正・加筆を加えた研究計画書はさらなる作業を進め、最終的な承認の準備を行う。	26 ①授業テーマ 研究実施⑩ ②授業概要 研究計画書に則り、課題に対する研究を実施する。 I 3 ③予習（300分） 適宜研究実施への影響を確認しながら次回の準備を行う。 ④復習（300分） 実験で得たデータの整理と見直し、共同研究者間で実施上の問題点を指摘し合う。適宜修正した方法はメモなどを取り、研究計画書との整合性を保つようにする。
12	①授業テーマ 研究計画書事前発表会③ ②授業概要 研究計画書に則り、研究実施に向けた承認を得るための発表・確認・	27 ①授業テーマ 研究発表会準備① ②授業概要 研究実施状況からデータの最終的な整理と結果に対する解釈、図表の

		評価を行う。F 1 ③予習（300分） 研究計画書の承認に向けた作成を中間発表に向け、最終調整を行う。 ④復習（300分） 授業後、発表者は指摘された点を踏まえ、さらに再考を重ねる。それぞれ研究計画書の到達度によって予備実験へ進む。また、適宜修正・加筆を加えた研究計画書はさらなる作業を進め、最終的な承認の準備を行う。	作成を行う。J 2 ③予習（300分） 研究発表会に向けた発表準備と事前発表会による修正作業を行う。 ④復習（300分） 発表資料の準備と修正、最終的な発表資料の確認を行う。
	13	中間発表会① 中間発表時点までの経過を含めた内容を反映させて、パワーポイントにてスライド10枚程度にその研究実施内容をまとめる。発表時間5分、質疑応答3分とし、開催1週間前までに研究の要約（400字程度）を担当教員に提出すること。	28 ①授業テーマ 研究発表会準備② ②授業概要 研究実施状況からデータの最終的な整理と結果に対する解釈、図表の作成を行う。J 2 ③予習（300分） 研究発表会に向けた発表準備と事前発表会による修正作業を行う。 ④復習（300分） 発表資料の準備と修正、最終的な発表資料の確認を行う。
	14	中間発表会② 中間発表時点までの経過を含めた内容を反映させて、パワーポイントにてスライド10枚程度にその研究実施内容をまとめる。発表時間5分、質疑応答3分とし、開催1週間前までに研究の要約（400字程度）を担当教員に提出すること。	29 研究発表会① 各自が実施した研究を、1) 研究の背景、2) 研究の目的、3) 研究の方法、4) 結果、5) 考察、6) まとめ、それぞれの項目に沿ってポスターにまとめ発表することとする。発表時間は3分とする。
	15	中間発表会を受けて 発表者は研究実施内容について指摘された点を踏まえ、さらに再度再考を重ねる。研究計画書はこの時点で完成とし、適宜予備実験へ進む。予備実験から適宜修正・加筆を加え、承認を得た研究計画書により具体的なスケジュールに則り、研究の実施を行うこととする。	30 研究発表会② 各自が実施した研究を、1) 研究の背景、2) 研究の目的、3) 研究の方法、4) 結果、5) 考察、6) まとめ、それぞれの項目に沿ってポスターにまとめ発表することとする。発表時間は3分とする。
関連科目	ゼミナールⅠ（SSCS4405）、ゼミナールⅡ（SSCS4406）、卒業論文（SSCS4607）		
教科書	特にありません。		
参考書・参考URL	適宜指示します。		
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 komatsu.taiki@nihon-u.ac.jp ■オフィスアワー メール等で事前にアポイントメントを取ることで、研究室で対応します。		
研究比率			

